

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国語演習	
科目基礎情報							
科目番号	4E001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は指定せず、授業担当者の作成したプリントを教材とする。参考文献は授業時に適宜紹介する。						
担当教員	難波 宏彰						
到達目標							
☐ 的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。 ☐ 必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。 ☐ 建設的な相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、適切に応用できる。			的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、ほぼ応用できる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用することができない。	
評価項目2	信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、適確に論理構成に活かすことができる。			信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができない。	
評価項目3	相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価し、建設的に助言することができる。			相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができない。	
評価項目4	相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。			相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができる。		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	20名前後の少人数クラス編成により、到達目標の達成にむけて実践的に学習する。						
授業の進め方・方法	クラスを二つに分け、主として演習形式により、適宜解説的講義を交えて授業を展開する。						
注意点	本科目は学修単位科目であり、授業30時間に対する授業外学修時間は60時間です。授業外学修は、授業内容に関する調査・考察・文章作成が主たる活動になります。〈日本語の使い手としてレベルアップする〉ことを心がけてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	敬語		尊敬語・謙譲語・丁寧語の定義を理解し、適切な運用能力を身につける。		
		2週	メールと手紙		メールや手紙の書式・表現・マナーを学び、実践する。		
		3週	履歴書		一般的な履歴書の書き方を学び、自分の履歴書の雛型を作成する。		
		4週	エントリーシート		さまざまな業界・形式のエントリーシートを分析し、その対策を学ぶ。		
		5週	レポート1（志望理由書）		ブレインストーミングなどの手法を取り入れ、大学・企業の志望理由書を作成する。		
		6週	レポート2（学習履歴）		自己PRの方法と「学習履歴」のまとめ方を学び、実践する。		
		7週	レポート3（学習履歴）		お手本との比較をとおし、自分が書いた「学習履歴」の修正・清書を行う。		
		8週	小論文 作成準備		小論文作成にあたって必要な手続きを理解する。与えられた条件に従って論題を決定し、必要な情報を収集する。		
	4thQ	9週	小論文 明瞭な文を書くための演習		演習問題により、明瞭な文を書くための留意点を理解する。次回までに要旨・構成表を作成してくる。		
		10週	小論文 要旨・構成表		要旨・構成表について、教員のチェックを受け、適宜修整する。次回までに初稿を作成してくる。		
		11週	小論文 相互批評		学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		12週	小論文 相互批評		学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		13週	小論文 添削・推敲		教員より添削を受ける。相互批評および教員の添削をふまえ、初稿を推敲する。次回までに小論文を完成させてくる。		
		14週	小論文 自己評価		完成稿、及び小論文作成への取り組みについて、自己評価を行う。		
		15週	総括 授業内容の確認		本授業を振り返り、得られた成果と残された課題を確認する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
評価割合						
		課題	レポート	小論文	合計	
総合評価割合		10	40	50	100	
基礎的能力		10	40	50	100	
専門的能力		0	0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	0	